

## 地域創成科学科と国際食農科学科を新設

来年4月、世田谷キャンパスに生命科学部3学科のほかに、地域環境科学部に地域創成科学科、国際食料情報学部国際食農科学科が新たに設置される（両学部とも4学科に）。これにより、厚木キャンパスの農学部（3学科）、世田谷キャンパスの応用生物科学部（4学科）、オホーツクキャンパスの生物産業学部（同）と合わせ、3キャンパス6学部22学科で多様な農学分野を探究することになり、新たな実学がスタートする。

### 「自然と人の共生」を考える

#### ■ 地域環境科学部地域創成科学科

学科長 竹内 康（たけうち・やすし）教授

源流域から中山間地を経て平野部に至る「農域」をフィールドとして、持続可能な地域創成を志向した自然再生や地域マネジメントに関する教育研究を行い、地域づくりに貢献できる人材の育成を目指します。



森・里・川・海 of 自然環境の恵みをいかし、人と自然が共生する豊かな暮らしと持続可能な地域環境の創成——を掲げる。

我が国の里山等の農山村地域は、水資源や食料生産、環境保全の重要な役割を担ってきた。しかし、少子高齢化や都市域への人口集中に伴う過疎化の進行によって、農山村地域の担い手不足が顕在化するとともに、地域社会の存続自体が危ぶまれている。また、食料自給率の向上が重要な課題とされている今日、食料を生産する場としての農山村地域の持続的発展が求められている。

地域を活性化するためには、地域が担ってきた生物や文化の多様性等を維持していく必要があり、後継者の育成や六次産業化など、農業を中心とした産業振興を進めていくことが基本となる。また、里山等の農山村地域の自然環境は、農作業等を通じて人間が継続的に係わり合うことによって維持されてきた二次的自然環境であり、これを維持していくことは、連綿と育まれてきた自然環境の多様性や、それらに根ざした伝統芸能や歴史的資産等、観光資源としての価値を有する生活文化の多様性も維持されることを意味している。一方で、全国的に土砂災害や洪水などの災害リスクが高まっていることから、地域経済の活性化を図っていくためには、農業を中心とした産業振興だけでなく、適切な社会資本ストックの維持管理を行い、安心安全な生活基盤を提供することが重要となる。

地域創成科学科では、「ひとづくり（教育論）」、「ものづくり（技術論）」、「ことづくり（計画・政策論）」の視点をもって、地域の生物多様性や生態系に配慮した土地利用方法、農業基盤に関連する防災を含む保全・管理技術、環境アセスメント手法やそれらを連携する



事業、地域マネジメント手法、環境教育といった教育研究体制を構築するとともに、「ひと・もの・ことによる持続可能な地域づくり」への貢献を目指す。

森林総合科学科、生産環境工学科、造園科学科に次ぐ第4の学科となる地域創成科学科の定員は80人。

#### ■ 研究室：自然再生分野

<保全生態学研究室> 地域の自然を適切に保全・再生することを目的として、生物群集と生態系の構造と機能、生物の進化と集団の維持メカニズム、景観資源としての樹木の保護管理に関して生態学的な観点から教育研究を行う。エコロジストの視点で地域を理解し、再生する。

<地域環境保全学研究室> 地球環境の保全と持続可能な生産基盤や生存環境の創出を目指して、人為的な開発行為が自然環境や生態系に与えるインパクトを評価するとともに、環境再生技術の開発について教育研究を行う。ナチュラリストの視点で地域を捉え、保全する。

#### ■ 研究室：地域マネジメント分野

<地域環境工学研究室> 持続可能な循環型社会の創出をめざし、頻発する自然災害や社会資本ストックの維持管理費の増大といった現在の地域社会が抱える課題を解決すべく、地域防災力の強化、